

山行報告書

京都田辺山友会

報告者 山下隆

山名	小野村割岳	山行名		
ルート	予定のルート：広河原バス停→佐々里峠→雷杉→小野村割岳→下の町バス停			
山行日	2015. 11. 21 (土)	天候	曇り	
参加者	リーダー：山下隆 サブリーダー：村上格也 参加者 13 名 男性：8 名。秋月、中島、中田、広瀬、竹原、梅沢 女性：5 名、竹原、伊藤、倉光、江平、玉井、			
ルート概略図	コースタイム			
	地名	時：分	地名	時：分
	広河原バス停	集 10:20 発 10:35	昼食場所 灰野分岐	着 13:40 着 14:15
	佐々里峠	着 11:15 発	佐々里峠	着 14:34 発 14:45
	灰野分岐	着 11:34	(板取り杉の 木 往復)	着
	大広場	着 12:06		発
	昼食休憩(道 脇に大杉)	着 12:15 発 12:35	佐々里峠	着 15:24
	カミナリ杉 (分岐)	着 12:40	下の町バス停 乗車	発 17:34
	引換し点		出町柳駅	着 19:20

山行報告；この聞き慣れない山は芦生の森のすぐ南に位置し、京都バス主催のトレッキングに昨年の9月に参加した山で、屋久島の縄文杉のごとき杉の大木が林立し、自然の尊さ逞しさを教えてくれた。会員の方々に是非紹介したく企画した。

マイクロバスで行くと、標高780mの佐々里峠まで行け、行程も1時間短縮出来る。一方、参加人数も13名と少なく、9月初めの時点で平安バスはすでに予約満杯だったので、出町柳から京都バスで終点の広河原まで2:30も揺られることになった。予定より20分遅れで着く。昨年の自分の行程時間より約1時間余裕のタイムスケジュールに対し、余裕は40分と短くなったので、昼食時間を短くすることとした。トラブルで最終バスに遅れると、泊まる場所は下山口から約5km車道を戻ればあるも、登山口や下山口周辺で野宿できそうな所がないかキョロキョロする。参加者にはツェルトを持ってきてもらうよう連絡は入れておいた。

広河原バス停から舗装道路を40分(標高差280m)で佐々里峠に到着、芦生へ別れる灰野分岐では予定より5分遅れとなり、かなり時間短縮が出来た。芦生杉の大木も増えてきた。芦生杉の下で風を避けながら、短時間での行動食を摂る。これで予定通りのスケジュールとなった。

雷に打たれ空洞となるもスクット立つ雷杉(本コースの目玉の一つ)に感銘を受けた後、しばらく行くと踏み跡が杉の落葉で埋もれてしまい道が消えてしまう。尾根道というもの、なだらかに広がっていて、皆で道を探すも見つからない。道迷いたいつかの地形に似ていた。コンパスで確認すると方向は間違いないが、その方向には現在地より標高の高い小野村割岳山の姿は無いのでおかしい。これから先は更に道は判り難くなる可能性もあり、予定のコースに進んだら、暗闇での谷筋下山になるのでリスクが増える。“迷ったら元の道に戻る”に従い佐々里峠に戻ることにした。

佐々里峠に着くと峠の仙人が迎えてくれ、山の講釈を聞く。樹齢2500年の芦生杉の珍しいのがあり必見とのことで案内していただいた。仙人の山の話は留まることはない。合いの手を入れていた竹原さんの感想文に盛り込んでいただく事にした。

佐々里峠からは舗装道を「広河原バス停」に戻る。バス時間まで余裕があるので、下山口にしていた「下の町バス停」まで歩き、日暮れ時に到着した。今回も竹原絹枝さんには得意技の大幅格安料金(LCCキヌエ)でお世話になりありがとうございました。

今回は目玉コースの約半分しか歩けなかった。参加していただいた方々には大変申し訳ありませんでした。引き返した地点からその先の小野村割岳の間にはまだまだ目を見張る沢山の芦生杉があります。インターネットで「佐々里峠」と「小野村割岳」で検索すると沢山の写真が見られますので、是非拝見してみてください。

ヒヤリハット；雷杉の先で、道は杉の落葉で覆われていて登山道を見失う。予定のコースを断念し元に戻る。

小野村割岳 山行 感想文

竹原順治

今回の山行は、勇気ある引き返しの結果、山行の第一目標である小野村割岳の山頂は残念ながら踏破できなかった。しかし、その往復の道中、幾本もの樹齢数百年から千年を超える個性的な杉の大木に会えて驚きと感動の連続であった。

その総仕上げが、復路、佐々里峠のお地藏さんの前で遭遇した80余歳というボランティア・ガイドの元気なおじいさんである。

標高735mのこの峠が、檜木と栃木の植生分岐高度であるとか、今、歩いてきた尾根道は約2千年前のけもの道を人間が通り始め、やがて、塩の道から鯖街道になっていったとか、そこに生えている根っこ丸出しの木は根元部の砂が流れたのではなく、元々、倒木に根を張った宿り木であり、倒木が朽ち果てた結果、このような根っこ丸出しの姿になったとか、やたら、このあたりの自然に詳しい。



この詳しいガイドが一押しでお勧めなのが、今、下ってきた尾根道を5分ほどけもの道に沿って戻ったところにあるという樹齢2500年、お釈迦さまの時代生まれの杉の古木。名を通称、板取木と言うらしい。しかし、今日は数々の古木を満喫してきた精か、みんなこの話にあまり興味を示さず、林道を下りだす。しかし、このガイドさん、「せっかくここまで来たのにこれを見ずに帰るとは。」と言って、そこまで自分が案内して説明するからという熱心さ。その熱意に引かれて、全員、また戻ってきて、いわゆる塩の道に入ってゆく。

あった、その木は。しかし、今日、幾本も巨大古木を見てきた目には、ワン・オブ・ゼムという感じ。そのガイドさん、大きさを実感するため木の周りを回れという。回って裏側を見て驚いた。ごつごつとした巨大な老木の幹に高さ約2m、幅約60cmの真っ平らな面があるではないか（写真参照）。

ガイドさん曰く、約150年前(幕末～明治初期)に地元の木こりさんが、この幹を採取した跡だという。当時、一般民家の天井は竹材がほとんどだったが、この頃になると蓄財した人々の間で、板の天井が流行り出し、高値で売れたのであろうとのこと。

それは分かった。しかし、このようにうまく真っ平らに削り出す方法は？ガイド再び曰く、まず、平面の最上部にノミやナタでV字状に切り込みを入れてのこぎりが縦に入る空間を作り出す。次に、最下部に水平にのこぎりで溝を入れる。あとは、上部のV字切り込み空間にのこぎりを入れて、下部の溝まで垂直方向に切り出すことによって、長さ2m、幅60cmのかまぼこ形状の大きな木片が切り出せる。それを、木こり一人が背中にかつげる大きさと重さに分断して運び降ろしたとのこと。まったく気の遠くなるような根気のいる150年前の匠の技の痕跡に出会えたことが、今回の山行の予期せぬ大きな思い出になりました。



事故やヒヤリ・ハットの掲載は、私達京都田辺山友会のメンバーが常に安全登山に心がけ、事故を起こさない為に参考事例として公表しております。お互いに十分気をつけましょう。

報告書（事故／ヒヤリ・ハット）

提出先・山行部長殿（ヒヤリハットの場合）

2015年11月24日

報告者（CL 又は 当人）：

日 時	2015年11月21日（土）	13時頃
山 行 名	小野村割岳	
CLと人数	CL：山下	人数：13名
天 候	曇り	発生場所；佐々里峠と小野村割岳のほぼ中間。雷杉の約15分先
事象の分類	滑落、転落・転倒、スリップ、 <u>道間違い</u> 、動・植物、落石（落水）、病気、体調不良、 <u>1/2.5万地図の不携帯</u> 、 <u>その他</u> 。複数〇もあり	
内 容 （状況） （症状） （応急措置） （救助） （他）	佐々里峠から小野村割岳に向かって尾根を東に向かって歩き、ほぼ中間の「雷杉」に到着。途中の登山道は杉の落葉や落葉樹の落葉が沢山あり、踏み跡に眼を凝らしながら、登山道を探しつつ記憶のある「雷杉」に着く。この間、時々コンパスを小野割岳方向にセットしていた。「雷杉」で東に再セットし、やや左方向に下る。急な下りに差し掛かったところで、杉の落葉で登山道を見失う。皆で探すも登山道は見つからず、進行方向には小野村割岳らしき山影は無く、迷ったらしい。ラフな地図しか用意してなく、この地図上では現在地を正確に確認出来ない。ここで、登山道探しに時間をかけ、小野村割岳に行けたとしても、余裕時間は無くなり、暗闇の谷道を下るのは危険なので、出発の佐々里峠に戻ることとした。「雷杉」に戻った時に小さな「小野村割岳 広河原」標識があるも判り難い。帰宅後、ネットで調べてみると、佐々里峠から東方向に来て「雷杉」で南に右折して、すぐまた東方向に左折して行くのが小野村割岳方向の登山道であることが判った。	
受 傷	無	
原 因	（気象・装備不足・ <u>技術不足</u> ・体力不足・ <u>準備不足</u> ・ <u>地図不携帯</u> ・ <u>不注意</u> ・他） 広い山域の状態が判る1/5万分の地図と1年前に京都バスからもらった手書きの地図は用意していたが、 <u>1/2.5万の地図は用事していなかった</u> 。迷いの分れ目だった「雷杉」地点で、 <u>地図上で正確に現在地を確認し得なかったのが原因</u> 。	
反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・小野村割岳までの尾根歩きは概ね東方向一本なので、道迷いの心配は無いだろうとの安易な考えがあったので 1/2.5万 の地図を用意していなかった。 ・昨年 9 月に一度行ったコースだという甘さがあった。その時は大勢の中の一人で要所には京都バスの方が案内してくれたので、頂いた手書きの地図にポイント（今回の「雷杉」地点での迷い安さ）を記入するのを怠っていた。 ・磁北線を書き込んだ 1/2.5 万の地図を携帯し、かつ地図上で現在地をもっと頻繁に確認しながら歩くべきだった。読図技術のレベルアップが必要。 	

・「かんなび」に掲載する時は報告者の氏名は伏せて掲載いたします。又、報告を受けた後、役員会で内容をチェックし、不備ならば報告者に修正・加筆をお願いすることがあります。

・「事故報告」の場合で用紙不足の場合は別の資料を添付してください。

2013.09.05 役員会